

No 34.

(1) [仮定法過去]《センター》

① Paul and Brian are fond of fishing.

→ ポールとブライアンは釣りが大好きだ。

◎文法解説:

- be fond of A = 「A が好きだ」。形容詞 fond + 前置詞 of。
 - fishing は動名詞で fond of の目的語。
-

② Now they want to try fishing in an area which they hear is really nice and where they can catch wonderful salmon.

→ 今、彼らはとても良いと聞いた場所で、素晴らしいサケが釣れるその場所で釣りをしてみたいと思っている。

◎文法解説:

- want to try fishing: 「釣りをしてみたい」。to V の目的語が fishing(動名詞)。
 - which they hear is really nice: 連鎖関係代名詞。先行詞 area を修飾する関係代名詞節の中に「they hear」が挿入。
 - 例① This is the book which I think is the most useful.
→ これは、私が最も役立つと思う本だ。
 - 例② He met a girl who he said was from Canada.
→ 彼は、自分がカナダ出身だと言った少女に会った。
 - where they can catch wonderful salmon: 関係副詞 where が先行詞 area を修飾。where の後ろは “they can catch wonderful salmon” という完全文。
-

③ The only trouble is that they might accidentally fish in an area where they do not have permission to fish.

→ 唯一の問題は、うっかり許可のない区域で釣りをしてしまうかもしれないことだ。

◎文法解説:

- the only trouble is that ...: 「唯一の問題は～だ」。that 以下が主語補語となる名詞節。
 - might accidentally fish ...: 「うっかり～してしまうかもしれない」。
 - might は may よりも可能性の推量が低いことを表す。= 「ひょっとすると～かもしれない」。
 - permission to fish: 「釣る許可」。不定詞が名詞 permission を後ろから修飾。
-

Supplementary notebook

④ If that happened, they would be poaching salmon and the consequences might not be good.

→ もしそれが起これば、彼らはサケを密猟していることになり、その結果は良くないかもしれない。

◎文法解説:

- If that happened, ... would ...: 仮定法過去。
 - 現在の事実と反する場合、if 節には過去形(仮定法過去)を用いる。
 - would be poaching: 進行形で「その最中であろうに」という臨場感を出す。
 - might not be good: 「良くないかもしれない」。控えめな推量。
-

⑤ They are wondering whether they should go or not.

→ 彼らは行くべきかどうか迷っている。

◎文法解説:

- wonder whether ...: 「～かどうかを迷う／考える」。
 - whether 以下は 名詞節 で wonder の目的語。
 - whether they should go or not: 「行くべきかどうか」。or not が疑問全体を完成させている。
-

(2) [仮定法過去完了]《香川大》

① One Christmas day when she was preparing a special dinner for her family, her dress caught fire.

→ あるクリスマスの日、彼女が家族のために特別な夕食を用意していたとき、ドレスに火が燃え移った。

◎文法解説:

- when she was preparing ...: when は関係副詞で「そのとき」を導き、過去進行形とともに「ちょうど～していたとき」。
 - dinner: 通常は不可算名詞だが、「a special dinner」のように特別な食事・行事として区切る場合は可算扱い。
 - caught fire: 「火がついた」。catch fire = 「燃え出す」。
-

② Within seconds, she became a human torch.

→ 数秒のうちに、彼女は火だるまになった。

◎文法解説:

- within seconds: 「数秒以内に」。
- a human torch: 「火だるま」。

- torch の語源:ラテン語 *torca*(ねじれた木材)→「松明」。炎をともすためにねじった布や木を使用したことから。

③ The flames burned so quickly and cruelly into her flesh that she was mad with pain.

→ 炎はあまりにも速く、残酷に彼女の肌に食い込み、彼女は痛みに狂った。

◎文法解説:

- so ... that ... 構文:「とても～なので...」。
- flame:「炎」。語頭の fl- は「ゆらゆら揺れる動き」のイメージ。
 - flag(旗:ひらひら揺れる) flamingo(フラミンゴ:赤い羽根が揺れる) flare(炎がゆらめく)
- be mad with pain:「痛みで狂う」。

④ She would have died if her father had not heard her scream.

→ もし父親が彼女の悲鳴を聞かなかったなら、彼女は死んでいただろう。

◎文法解説:

- If S had Vp.p., S would have Vp.p.:仮定法過去完了。過去の事実と反する仮定を表す。
- had not heard = hadn't heard:過去完了の否定。
- would have died:「死んでいたはずだが、実際には死ななかった」。反事実の推量。

⑤ He raced into the kitchen, threw himself on top of her, and put out the fire with his own body.

→ 父親は台所に駆け込み、身を投げ出して彼女の上に覆いかぶさり、自分の体で火を消した。

◎文法解説:

- race into ...:「急いで～に駆け込む」。
- throw oneself on top of ...:「～に覆いかぶさる」。
- put A out:「A を消す」。out は副詞で「外へ＝消える方向」。= extinguish

(3) [I wish S 過去形]《大阪府立大》

① After I gave a talk on the subject of happiness, a woman in the audience stood up and said, "I wish my husband had come."

→ 私が幸福について講演をした後、聴衆の一人の女性が立ち上がって言った。「夫が来てくれたらよかったのに」と。

◎文法解説:

Supplementary notebook

- give a talk on ...:「～について講演をする」。on は「テーマとして」。
 - a book about Japan:「日本について書かれた本」
 - a book of Japan:「日本に属する／日本の作品集」
 - a book on Japan:「日本を研究・解説した本」(学術的ニュアンス)
 - I wish my husband had come.: I wish + 過去完了。「～だったらよかったのに」。
-

② As much as she loved him, she explained, it wasn't easy being married to someone so unhappy.

→ 彼女は夫をととても愛していたが、とても不幸な人と結婚しているのは容易ではないと説明した。

◎文法解説:

- As much as S V ...:「～ではあるが」。譲歩表現。= (al)though.
 - she explained:挿入節。主文の流れに割り込んで補足する。
 - be married to A:「A と結婚している」。
 - someone so unhappy:「そんなに不幸な人」。形容詞は someone を 後ろから修飾。
-

③ This woman enabled me to put into words what I had been searching for — the altruistic, as well as the personal, reasons for taking happiness seriously.

→ この女性のおかげで、私はそれまで探し求めていたことを言葉にできた — 幸福を真剣に考える理由として、利己的な理由だけでなく利他的な理由も。

◎文法解説:

- enable O to V:「O に～できるようにする」。無生物主語構文で「～のおかげで」。
 - 例: This book enabled me to understand the theory. (この本のおかげで理論を理解できた)
 - put A into words:「A を言葉にする」。
 - what I had been searching for:名詞節。「私が探していたもの」。
 - search = 場所を探す(一般)。search for A = A(もの)を探し求める。
 - altruistic:「利他的な」。語源:ラテン語 alter(他者) + -istic.
 - as well as:「～だけでなく…も」。A as well as B: B だけでなく A も(A に重点)。
-

④ I told her that each of us owes it to our spouse, our children, our friends to be as happy as we can be.

→ 私は彼女にこう伝えた。私たちはみな、できるだけ幸福であることを配偶者や子ども、友人に対して果たすべき義務として負っている、と。

◎文法解説:

- owe it to A to V:「V することは A に対する義務である」。
 - it は形式目的語、to V が真目的語。
 - 例① We owe it to our parents that we are here.(ここにいるのは両親のおかげ)
 - 例② We owe it to our teachers to study hard.(一生懸命勉強するのは先生方への義務)
 - spouse:「配偶者」。
 - as ... as we can be:「できるだけ～」。
-

⑤ And if you don't believe me, ask a child what it's like to grow up with an unhappy parent, or ask parents what pain they suffer if they have an unhappy child.

→ そして、もし私の言うことを信じないなら、子どもに聞いてみなさい — 不幸な親のもとで育つとはどんなことかを。あるいは、親に聞いてみなさい — 不幸な子どもを持ったときに彼らがどんな苦しみを味わうかを。

◎文法解説:

- ask A what it's like to V:「A に、V するとはどんなことか尋ねる」。
 - what it is like to V:
 - it が形式主語、to V が真主語。like は前置詞「～のような」。what S is like = 「S がどんなものか」。
-

(4) [as if S 過去形]《北海道大》

① When she first started teaching at a London secondary school, Debbie Brown experienced many kinds of discipline problems.

→ ロンドンの中高等学校で教え始めたとき、デビー・ブラウンはさまざまな規律問題を経験した。

◎文法解説:

- when ...:時間の副詞節。
 - discipline:「規律・訓練」。語源:ラテン語 *disciplina*(学び、訓練) ← *discere*(学ぶ)。
- *discere* は印欧語根 *sci-*(知る)につながる。Scientist(科学者), conscious(気づいている), conscience(良心) などと同系。
-

② However, the thing that irritated her the most was when a mobile phone rang at the back of her class.

→ しかし、彼女を最もイライラさせたのは、授業の後方で携帯電話が鳴ったときだった。

Supplementary notebook

◎文法解説:

- However: 接続副詞。「しかしながら」。接続詞とは違い、節ではなく文全体をつなぐ。
 - irritate: 「イライラさせる」。語源はラテン語 irritare (刺激する)。
 - annoy = 軽い迷惑、anger = 強い怒り、irritate = 持続的な苛立ち。
 - the thing that irritated her ...: 関係代名詞 that が先行詞 thing を修飾。
-

③ “If that wasn’t bad enough,” she recalls, “the student answered the phone and carried on his conversation as if it was the most natural thing in the world to do.

→ 「それだけでもひどいのに」と彼女は回想する。「その生徒は電話に出て、まるでそれが世界で最も自然なことかのように会話を続けたのだ。」

◎文法解説:

- If that wasn’t bad enough: 「それだけでもひどいのに」。Enough は形容詞、副詞を後ろから修飾。
 - she recalls: 挿入節。主文の途中に差し込んで発話者の説明を補う。
 - carry on A: 「A を続ける」。ここでは「会話を続ける」。
 - as if it was ...: 仮定法過去。「まるで～であるかのように」。
 - it = answering the phone and continuing conversation
-

④ I didn’t know whether to laugh, cry or shout.”

→ 「私は笑うべきか、泣くべきか、怒鳴るべきか分からなかった。」

◎文法解説:

- whether to V: 「～すべきかどうか」。不定詞と組み合わせて選択を表す。
- laugh, cry, shout が並列し、感情の混乱を強調している。